

入門期の書写指導

適切な筆圧で、正しく整った文字を書こう――

新しい指導を考える会

1 実践の趣旨

春、四月。一年生にとっては、小学校生活の始まりの季節である。子どもも親も、どんな学校生活が待っているのだろう、どんな学習をするのだろうと期待に胸を膨らませて入学してくる。私たち教師も、「さあ、学校生活の第一歩だ。」と、一年生との出会いを楽しみにしている。

一年生の担任をしていて感じることは、どの子も「早く鉛筆を持って文字を書きたい。」という意欲がとても強いということだ。また、入学以前に家庭や幼稚園、保育所で鉛筆を持ち、文字を習得してくる児童もかなりいて、「自分の名前を書けるよ。もつといっぱい字を書いて勉強したい。」と意欲に満ちている。このやる気の火を消すことのないように、大切にしたいと思う。

ところが、実際に鉛筆を持たせてみると、正しい鉛筆の持ち方ができる児童は全体の半数ほどで、残りの児童はすでに我流で鉛筆を持っていることに気づく。また、年々感じることは、筆圧をかけて文字を書くことができない児童が増えて

いるという実態である。まっすぐ引くはずの画が、色も薄くひよろひよろとうねっている。文字の始筆も終筆も、止まった形跡がなく、いつの間にか書き始め、いつの間にか鉛筆を離れている。

筆圧が適度にかかった「正しく整った文字」を書くことができるようにすること、それが一年生担任に与えられた最初の課題だと考え、入門期である一学期は、次の二点を目標に書写の指導を行おうと考えた。

◆正しい姿勢、正しい鉛筆の持ち方を理解して書く。

◆平仮名の外形・筆順・点画の終筆や送筆の書き方を理解して書く。

具体的には、次のような指導を行った。

○適度な筆圧がかかった文字を書くため、「指の体操」や「消しゴムクレール鉛筆を使った練習」など、指先の巧緻性を高める活動を随時取り入れる。

○平仮名を系統化して指導し、基礎・基本の定着を図る。

・「外形（真四角・縦長四角・横長四角など）を理解して書く」もの（け・も・へ）
・「筆順に気をつけて書く」もの（は・な）
・「画の終わり（止め・はね・払い）を学習する」もの（く・か・う）
・「画の途中（折れ、曲がり、結び）を学習する」もの（わ・ひ・ま・す）

ここでは、「平仮名にはいろいろな外形があることを知り、外形と終筆に気をつけて書いていねいに書く」ことを目標とした指導を紹介する。

2 指導計画（全3時間）

- 【目標】 ◎平仮名の外形（真四角・縦長四角・横長四角）を理解して書く。
◎点画の終筆の書き方を理解して書く。
◎平仮名の外形、終筆を意識して、自分だけの時間割表を書く。

学習内容と児童の活動		教師の支援
第1次（本時）	外形に気をつけて書く 1. 指の体操と「くるくるのの字」の練習をする。 2. 本時のめあてを知る。 <u>じのかたち</u> に <u>きをつけて かこう</u> 3. 「わに」「うし」「いぬ」それぞれの動物にぴったりする字を探す。 4. 探した字を発表し合う。 5. 外形に気をつけていねいに書く。 6. 学習の振り返りをする。	・指の体操と「くるくるのの字」の練習をして、リラックスして文字を書こうという気持ちにする。 ・「わに」「うし」「いぬ」の動物の形をかたどったカードを用意しておき、外形に目を向けさせるようにする。 ・外形を意識させるため、長方形・正方形の影を入れた練習用紙を用意する。
第2次	終筆に気をつけて書く 1. 指の体操と「ジグザグびよんびよんの線」の練習をする。 2. 本時のめあてを知る。 <u>かくの おわりに</u> に <u>きをつけて かこう</u> 3. 「く」「か」「う」の終筆を調べ、止め・はね・払いがあることを知る。 4. 止め・はね・払いを身体や音声で表現する。 5. 終筆を意識しながら、ていねいに書く。 6. ほかに、止め・はね・払いを含む字を探す。 7. 学習の振り返りをする。	・指の体操と「ジグザグびよんびよんの線」の練習をして、楽しく書写に取り組もうという気持ちを持たせる。 ・大きな虫めがねを用意し、画の終わりに着目させ、止め・はね・払いを意識させる。 ・止め（ぎゅっ）、はね（びよん）、払い（すうっ）と言いながら大きく空書きし、終筆に意識を向けさせる。
第3次	学習したことを生かして書く 1. 指の体操と「くるくるのの字」「ジグザグびよんびよんの線」の練習をする。 2. 本時のめあてを知る。 <u>じのかたち</u> 、 <u>かくの おわりに</u> に <u>きをつけて</u> 、 <u>じぶんだけの じかんわりひょうを かこう</u> 3. 前時までの学習を生かして、時間割表に教科名を書く。 4. 確かめる。 5. 学習のまとめをする。	・前時までの学習を振り返り、文字の外形と終筆に気をつけて書くことを知らせる。 ・「自分だけの時間割表を作ろう」という目標を掲げ、楽しみながら教科名の練習ができるようにする。

〈評価規準〉

	おおむね満足できる状況	努力を要する児童への手立て
関心意欲態度	○「け」「も」「へ」の外形に関心をもって調べている。 ○「く」「か」「う」の終筆に興味をもって調べている。	・動物の形をかたどったカードを用意しておき、外形に目を向けさせるようにする。 ・大きな虫めがねを用意し、画の終わりに着目させ、止め・はね・払いを意識させる。
知識理解	○平仮名の外形を理解している。 ○平仮名の終筆には、止め・はね・払いがあることを知っている。	・机間指導を行い、外形を説明する。 ・画の終筆を言葉【止め（ぎゅっ）、はね（びよん）、払い（すうっ）】で表しながら空書きさせる。
技能	○外形に注意して「わに」「うし」「いぬ」などの語句を書いている。 ○終筆に注意して「くご」などの語句を書いている。 ○外形や終筆に注意して時間割表に教科名を書いている。	・補助線を入れた練習用紙を用意したり、個別指導を行ったりする。

4 実践から得られたことと今後の課題

平仮名の外形をとらえさせるために、「わに」「うし」「いぬ」の動物の形をかたどったカードを用いたが、子どもたちは、意欲的に「わに」の仲間の字や「うし」の仲間の字を探し、外形を意識することができた。また、長方形や正方形の影を入れたワークシートを用意したが、これも、一年生が形をとらえるのに有効であったと思う。

しかし、個人差が大きいことには変わりがない。いくら外形をとらえられても、自分の思ったとおりに鉛筆を動かすことができず、結果として字形が整わない児童もいる。指先の巧緻性は、一朝一夕に身につくものではない。できるようになったことをほめ、長い目で見守りながら指導を継続しなければならない。指先をほぐす体操や消しゴムクレン鉛筆を用いた指先の訓練は、授業のなかだけではなく、遊び感覚で休み時間などにも取り組むようにしてきた。子どもたちは「字が上手になる体操」とよんで誰が速くできるかなど、楽しそうに取り組んでいる。

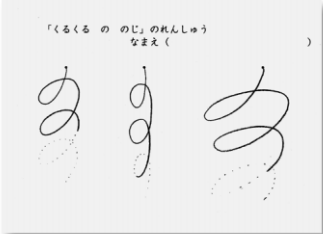
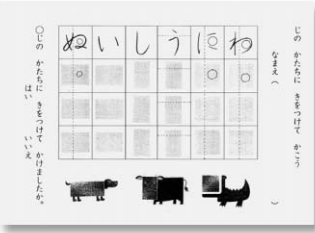
一年生の一学期、国語の時間はすべて書写の学習であると言っても過言ではない。楽しく基礎・基本が定着できるように教材を工夫することが大切である。下に載せたものは、同じ児童が四月と一月に自分の名前を書いたものである。

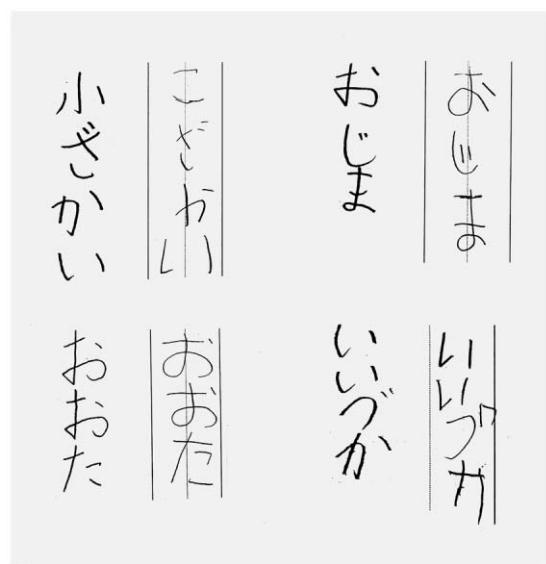
どの児童も、文字の外形を意識し、送筆や終筆にも意識が向いていることが見てとれる。なにより、筆圧が適度にかかったしっかりとした文字を書くことができるようになった。

今後、「書写っておもしろい」「書写大好き。」と子どもたちが目を輝かせて取り組めるような教材を工夫していきたい。

3 本時の展開 (第1次)

- 【目標】 ◎平仮名の外形には真四角や縦長四角、横長四角などいろいろな形があることに気づく。
◎平仮名の外形を理解して、ていねいに書く。

学習活動・指導上の留意点と支援(○)	学習の様子
1. 指先をほぐす体操をする。 - 指の体操と「くるくる の の字」の練習をする。 - 指の体操を一緒にする。また、「くるくる の の字」は黒板に大きく書いて示す。 - 時間があれば「消しゴムクレン鉛筆」を用いた指先の訓練をする。 2. 学習のめあてを知る。 じの かたちに きをつけて かこう。 「わに」「うし」「いぬ」が示す形はどんな形か確認し、それに合う形の字があることを知らせる。 「わに」「うし」「いぬ」の形を切り抜いた絵カードを用意する。 3. 「わに」「うし」「いぬ」それぞれの動物にぴたり合う字を探す。 - 教科書の「ひらがなの ひょう」を見ながら、形の仲間探しをする。 「わに」「うし」「いぬ」以外の形にも気づく児童がいたら、軽く触れておく。 (例) 逆三角形(きつね)の形…す、て、や など 三角形(やま)の形…え、ふ、み など 4. 探した字を発表し合う。 「わに」の仲間…わ、に、お、け、せ、た、ほ、む など 「うし」の仲間…う、し、も、ま、く など 「いぬ」の仲間…い、ぬ、つ、へ など 5. 外形に気をつけてていねいに書く。 - 外形を意識させるため、長方形・正方形の陰を入れた練習用紙を用意する。 「わ」「う」「ぬ」などの平仮名を書く際は、「くるくる の の字」で練習したように鉛筆を動かすことを伝える。 6. 学習のまとめをする。 - 今日の学習で分かったことを発表し合う。 平仮名の形には、「わに」の形や「うし」の形、「いぬ」の形などがある。	▼ 指先をほぐす体操 <その1>人差し指ぐるぐる、親指ぐるぐる  <その2>指の階段のぼり  <その3>消しゴムクレン鉛筆 (国語教育相談室No.47参照) 時間が空いたときに随時活用している。  ◀「くるくる の の字」の練習用ワークシート  外形を意識させるための練習用紙 



就学直後から始まる書写の学習は、児童にとって本格的な書字活動の出発点であり、書写力の基盤を形成する大切な時期でもあります。書写力の基盤となる文字を書く姿勢、筆記具の持ち方、さまざまな字形の認識などについては、型どりの指導では十分な効果は期待できません。本授業実践では、児童の指先の巧緻性を高めるための工夫、文字を書くことへの興味・関心を高めるための調べ学習や発表、そして学習成果を時間割表作成という展開でまとめています。子どもたちの将来の書写力を見すえた、ここでの書写力の基礎としての知識・技能の習得、そして応用にまで発展させた指導内容は、どれを取っても児童をわくわく学習させるのに十分です。入学当初に書かれた名前の変容ぶりとその学習成果を物語っています。ここで育まれた書写力の基盤は、児童の学習成果の結晶であるとともに、指導者の勲章でもあると考えます。

(M)